

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成29年4月27日(2017.4.27)

【公開番号】特開2015-191638(P2015-191638A)

【公開日】平成27年11月2日(2015.11.2)

【年通号数】公開・登録公報2015-067

【出願番号】特願2014-70712(P2014-70712)

【国際特許分類】

G 06 F 13/00 (2006.01)

G 06 F 3/048 (2013.01)

【F I】

G 06 F 13/00 5 4 0 R

G 06 F 3/048 6 5 2 B

【手続補正書】

【提出日】平成29年3月24日(2017.3.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

文章データと、当該文章データに用いられ、既読判定に用いる複数の文字と、当該複数の文字ごとに定められた表示必要時間とが記憶された記憶手段と、前記文章データの少なくとも一部領域を画面に表示させる表示制御手段と、前記文字ごとに、当該文字の画面上に表示された表示時間を取得する文字表示時間取得手段と、前記文字表示時間取得手段で取得された文字の表示時間から、当該文字が既読文字であるかを判定する文字判定手段と、前記複数の文字のうち前記文字判定手段で既読文字であると判定された文字が、所定以上の場合に前記文章データを既読であると判定し、所定未満の場合に前記文章データは未読であると判定する文章判定手段と、を有することを特徴としている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

文章データと、当該文章データに用いられ、既読判定に用いる複数の文字と、当該複数の文字ごとに定められた表示必要時間とが記憶された記憶手段と、

前記文章データの少なくとも一部領域を画面に表示させる表示制御手段と、

前記文字ごとに、当該文字の画面上に表示された表示時間を取得する文字表示時間取得手段と、

前記文字表示時間取得手段で取得された文字の表示時間から、当該文字が既読文字であるかを判定する文字判定手段と、

前記複数の文字のうち前記文字判定手段で既読文字であると判定された文字が、所定以上の場合に前記文章データを既読であると判定し、所定未満の場合に前記文章データは未読であると判定する文章判定手段と、を有することを特徴とする情報処理システム。

【請求項2】

前記文章判定手段の判定は、前記複数の文字のうち既読文字であると判定された文字の

割合である既読妥当性率を利用するものであることを特徴とする請求項 1 記載の情報処理システム。

【請求項 3】

前記文章判定手段の判定には、前記文章データに含まれる既読判定に用いる複数の文字の数によって当該文章データごとに決まる割合である妥当性基準率が用いられることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の情報処理システム。

【請求項 4】

前記複数の文字の数が第一の数の場合の前記妥当性基準率の文字の割合は、前記複数の文字の数が前記第一の数より少ない第二の数の場合の前記妥当性基準率の文字の割合より少ないと特徴とする請求項 3 に記載の情報処理システム。

【請求項 5】

前記表示制御手段で表示された画面に表示された文章データから、前記既読判定に用いる文字を取得する文字取得手段と、

前記表示制御手段によって前記画面が表示された表示時間を取得する領域表示時間取得手段と、をさらに有し、

前記文字表示時間取得手段は、前記画面に前記文章データの少なくとも一部領域が表示されている時間を累積することで、前記文字の表示時間を取得することを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の情報処理システム。

【請求項 6】

前記文字取得手段は、前記表示制御手段で表示させた前記画面の画像を、光学式文字認識手段を用いて文字認識させることで前記文字を取得することを特徴とする請求項 5 に記載の情報処理システム。

【請求項 7】

前記領域表示時間取得手段は、前記画面の画像が表示されたタイミングと当該画像が表示されなくなったタイミングとの間の時間を取得することで前記表示時間を取得することを特徴とする請求項 5 または 6 に記載の情報処理システム。

【請求項 8】

前記文字表示時間取得手段で取得された文字の表示時間が前記表示必要時間に満たないと判定された場合に、ユーザに前記文章データを再度表示するように促すことを特徴とする請求項 1 乃至 7 のいずれか 1 項に記載の情報処理システム。

【請求項 9】

前記既読判定に用いる文字は、前記文章データに所定の回数以上用いられている文字であることを特徴とする請求項 1 乃至 8 のいずれか 1 項に記載の情報処理システム。

【請求項 10】

前記文章データから所定の文字を抽出する抽出手段と、

前記抽出手段によって当該文字が所定回数以上抽出された場合に、前記既読判定に用いるも文字とするとして記憶手段に登録する登録手段と、

を更に有することを特徴とする請求項 1 乃至 9 のいずれか 1 項に記載の情報処理システム。

【請求項 11】

文章データと、当該文章データに用いられ、既読判定に用いる複数の文字と、当該複数の文字ごとに定められた表示必要時間とが記憶された記憶手段を備えた情報処理システムの制御方法であって、

前記文章データの少なくとも一部領域を画面に表示させる表示制御工程と、

前記複数の文字ごとに、当該文字の画面上に表示された表示時間を取得する文字表示時間取得工程と、

前記文字表示時間取得工程で取得された文字の表示時間から、当該文字が既読文字であるかを判定する文字判定工程と、

前記複数の文字のうち文字判定工程で既読文字であると判定された文字が、所定以上の場合に前記文章データを既読であると判定し、所定未満の場合に前記文章データは未読で

あると判定する文章判定工程と、を有することを特徴とする情報処理システムの制御方法。
。

【請求項 1 2】

文章データと、当該文章データに用いられ、既読判定に用いる複数の文字と、当該複数の文字ごとに定められた表示必要時間とが記憶された記憶手段を備えた情報処理システムで動作するプログラムであって、

前記情報処理システムを、

前記文章データの一部領域を画面に表示させる表示制御手段、

前記複数の文字ごとに、当該文字の画面上に表示された表示時間を取得する文字表示時間取得手段、

前記文字表示時間取得手段で取得された文字の表示時間から、当該文字が既読文字であるかを判定する文字判定手段、

前記複数の文字のうち前記文字判定手段で既読文字であると判定された文字が、所定以上の場合に前記文章データを既読であると判定し、所定未満の場合に前記文章データは未読であると判定する文章判定手段、として機能させることを特徴とする情報処理システムとして機能させるためのプログラム。